

麻酔科

医長： 野上 悟史

「概要と特徴」

日本麻酔科学会認定専門医を含む常勤医 8 名が指導に当たる。麻酔科業務としては各科の麻酔を担当するほか、ICU(認可 6 床)の管理を担当、外来では術前診察を行っている。手術症例は年間約 6000 例、麻酔科管理症例は約 3000 例である。当院では診療科の数が多く、麻酔の症例は多種多様である。中でも種々の脊椎手術や、開心術、腎移植等、行う施設が限られている手術の麻酔は当院における麻酔の特徴となっている。また循環器疾患、血液疾患、内分泌疾患、透析等リスクの高い患者の麻酔が多くなっており、より専門的な麻酔管理が要求される。ICU では周術期管理のほか救急患者、重症患者の治療に当たっている。

「初期研修の基本方針」

【研修の目的と特徴】

1. 麻酔・救急蘇生に関する基礎的知識と手技の習得
2. 呼吸・循環・代謝を主とした全身管理の基礎的知識の習得

「教育方法」

手術室において毎日数例の臨床麻酔を指導医の指導下に行う。それらの症例を通して上記研修目的である麻酔と救急蘇生に関する基礎的知識と手技の習得、および呼吸・循環・代謝を主とした全身管理の基礎的知識を習得する。

【到達目標】

- ① 必要に応じた静脈路の確保ができる。
- ② 気管挿管を主とする気道の確保および管理ができる。
- ③ 用手および機械による人工呼吸の維持・管理ができる。
- ④ 自らの五感と種々のモニターを介して患者の全身状態が把握できる。
- ⑤ 患者の全身状態の迅速な評価、状態に応じた適切な対応、処置ができる。

「研修予定表」

行 事	曜 日	時 間
麻酔	月～金	8:15 ～

「指導体制」

基本的に常勤医師とのマンツーマンで指導を行う。

「経験可能な症例や手技(1ヶ月の場合)」

麻酔法	経験する手技	経験手技例数
全身麻酔	気道確保、気管挿管の手技の習得	約 40 例
	静脈確保の手技の習得	約 20 例
	中心静脈確保(内頸静脈)	約 1 例

「後期研修について」

研修の目的

1. 術前評価と麻酔計画、麻酔管理の習得。
2. 周術期患者管理の習得。

将来の進路(専門研修に進んだ場合)と取得資格

麻酔科標榜医	麻酔科を標榜するために必要な国家資格で、通常 2 年以上麻酔の研修を受け、厚生労働省の審査を受け認定される。
麻酔科認定医	麻酔科標榜医を取得し、日本麻酔科学会の審査を受けて認定される。
日本専門医機構 麻酔科専門医	専門研修プログラムで研修 4 年目、もしくは終了して、日本麻酔科学会が行う試験に合格して認定される。
麻酔科指導医	麻酔科専門医を取得して 5 年以上麻酔に専従し、日本麻酔科学会の審査を受けて認定される。

「研修責任者よりひとこと」

麻酔科では初期研修期間中は主に気道確保等の基本的手技の習得に重点がおかれます。これらは特に蘇生処置の習得には非常に重要な手技と考えます。後期研修では、より高度な手技の習得(例:経食道心エコー、エコーガイド下神経ブロック、特殊挿管手技など)も可能と考えます。